

厳しい寒さが続いた冬も終わり、春の暖かさを感じられる季節になりました。

本日はこのような素敵な式典を挙げていただき、多忙にもかかわらず、ご出席くださった先生方、ご来賓の皆様に卒業生を代表しまして、心より御礼申し上げます。

3年前、新型コロナウイルスの感染拡大で、中学校の卒業式も例年通り実施されませんでした。明星高校の入学式も同様で、高校生活への期待よりも、不安と戸惑いが大きい中でのスタートとなりました。分散登校やリモート授業が続く、早くいつもの日常に戻ってほしいと思わずにはいられませんでした。毎日登校できるようになっても、おしゃべりしたい昼食時に黙食しなければいけなかったり、部活動ができなかったりと多くの制限がありました。しかし、友達と話すことで、みんな同じ気持ちだとわかって不安も徐々に和らいできました。秋には球技大会やカレー作りといった行事があり、他のクラスとも交流する機会となって、クラスだけでなく、学年の仲間意識も生まれました。

2年生になって、学校にも慣れると、生徒会や部活動にも熱心に取り組めるようになりました。私は生徒会長として活動する中で、コロナ禍でも今までとは異なる方法で学校行事や委員会活動を運営するために、先生方や先輩方が腐心してくださっていたことを知りました。コロナ禍は確かに辛いですが、でもそれは私たちだけではありません。どうしようもないこの状況においていつまでも嘆くより、それを受け入れた上で感謝の気持ちを忘れてはいけないことに気づかされました。できないことを数えるより、できることを楽しみ、頑張ろうと思えるようになりました。

何度か延期されていた研修旅行も、3年の最初に行くことができました。私たちのクラスは京都と大阪に訪れました。USJでジェットコースターに乗り、ハリーポッターやマリオの世界を楽しんだ事は忘れません。さらに夜には起業家の方々の講演を聞きました。起業だけでなく、働くとはどういうことなのか、考えさせられる内容で、昼間の疲れが吹き飛ぶほどの興味深い話をしていただき、たくさんの刺激を受けました。

楽しかった研修旅行を終え、私たちもいよいよ受験生となりました。放課後に黙々と自学に取り組む人も増え、クラスの雰囲気も目に見えて変わっていきました。その中で私は焦っていました。今まで真剣に勉強してこなかったせいで、なかなか真っ向から受験に取り組む覚悟が決まらなかったのです。軽音楽部で全国大会に出場することになり、部活動に忙しかったということもあります。大会を終えて夏の終わり頃には覚悟も決まり、私も本格的に受験勉強を始めました。しかし、結果はすぐに出ません。模試の結果で何度もE判定を見て、諦めようかと思ったこともあります。辛くて、くじけそうになった時もありましたが、みんなの支えで最後まで頑張り抜き、第一志望に合格することができました。結果だけでなく、最後まであきらめなかったことが、今の私の誇りであり、私たちの自信になっています。

もちろんそれは自分1人だけの話ではありません。ひとりぼっちの戦いではなく、周りの人々がいてこそだったと思います。

私が決して熱心な生徒とは言えない時期でも、担任の黒瀬先生は粘り強く面談してくださり、先生方は熱のこもった授業をしてくださいました。そのおかげで、苦手な勉強も投げ出さずに取り組むことができました。特に世界史は定期テストすら十分に勉強してこなかったせいで苦手でしたが、副担任でもある池戸先生はそんな私を見捨てず、お忙しい中質問しても一つ一つ丁寧に教えてくださいました。世界の歴史

の流れやつながりを学んだことで、ニュースを見る時にも、背景が理解できるようになり、さらに世の中を知りたいと思えるようになりました。

家族はなかなか結果が出ない中でもずっと応援し続けてくれました。意見がぶつかる事はあっても、母は毎日朝早くに起きて、お弁当を作ってくれました。父は私が2年生の冬と一緒に京都に連れて行ってくれて、京都に進学する決意が固まるきっかけになりました。受験のプレッシャーを和らげるためなのか、父は「俺は別に期待してないよ」とそっけないことを言っていました。その言葉とは裏腹に、進学についてたくさん相談に乗ってくれました。これまで迷惑をかけてばかりでしたが、いつも私を見守ってくれてありがとうございました。これからもよろしくお願いします。

周りの友達も私にとって大きな支えです。自分自身もきっと受験で不安なところがあって忙しいはずなのに、時間を割いて私のわからないところを教えてくださいました。そのおかげで私の得点が上がったときには自分のことのように喜んでくれました。志望校は別々でもお互いに切磋琢磨し、励まし合う大切な存在でした。勉強以外でも、休み時間にたわいのない話でふざけあったり、趣味の話をして盛り上がったり、辛いことがあった時、涙して話を聞いてくれたりしました。コロナ禍で残念なことも多かったけど、でもみんながいたおかげで楽しく、頑張ることができて、コロナがあっても、これが私たちの青春だったと名残惜しく感じます。

在校生の皆さん、このような状況で行事など関わる機会も減り、私たちは頼りになる先輩ではなかったかもしれません。でも一緒に過ごしてきた日々を私たちは忘れません。皆さんには今後ぶつかる大きな壁があっても、乗り越えられないものはないと思って全力で取り組んでほしいです。自分自身と向き合い、正直になってください。そしてこの学校で会って、たくさんの仲間と過ごしたこれまでの時間、これからの時間を大切にしてください。

私達の高校生活は順風満帆ではありませんでした。しかし、たくさんの逆境を乗り越えてきたからこそ、立ち向かい、挑戦していけると思います。私たちは、明星で学んだことを、胸に刻み、感謝の気持ちを忘れず、困難に負けず、それぞれの新たな場所で、一歩ずつ前に進んでいくことを誓います。

最後になりましたが、今日この日のために足を運んでくださった皆さんのご健勝と明星学苑のさらなる発展を祈念し、答辞とさせていただきます。

平成令和5年3月1日
明星高等学校 MGS コース
5期生代表 木越 詩乃